

令和3年度第1回八戸市総合教育会議 会議録

開催日時 令和3年10月22日(金) 午前9時

場 所 是川小学校

構 成 員	八戸市長	小 林 眞
	教育委員会教育長	伊 藤 博 章
	教育委員会委員	築 瀬 眞知雄
	教育委員会委員	油 川 育 子
	教育委員会委員	小瀬川 喜 井
	教育委員会委員	福 井 武 久

案 件 ○是川縄文館学芸員による出前授業の視察
○意見交換

開 会

○是川縄文館学芸員による出前授業の視察

(是川小学校 佐々木校長より、資料に基づき授業の概要説明)

(佐々木校長引率により、市長、教育長及び委員 授業視察)

- ・ 6年1組：是川縄文館学芸員による出前授業（社会）

(午前10時10分 休憩)

(午前10時30分 再開)

○意見交換

(小林 眞 市長)

本日は、令和3年度第1回目の会議となります。昨年度の総合教育会議では、小中野小学校で1人1台端末を導入した授業を視察いたしました。タブレットや大型ディスプレイを使い、子どもたちが活発に意見交換する、考えを共有するなど、先生と児童のつながりや児童同士のつながりを強めるツールとして上手に活用しておられました。授業を視察した後は、ICT環境を活かした今後の学校教育の可能性について意見交換をいたしました。

今回は是川縄文館の学芸員による出前授業の視察ということで、是川小学校での開催となりましたが、お忙しい中御対応いただいた佐々木校長先生をはじめ、御協力いただいた先生方や、御理解賜りました保護者の皆様に感謝いたします。

それでは早速、意見交換を進めてまいります。まずは是川縄文館から今日の出前授業の概用・ポイントについて、説明をお願いいたします。

(是川縄文館 松橋 広美 副館長)

《資料に基づき説明》

(小林 眞 市長)

順次、感想をいただくこととしたいと思います。まず私の方から出前授業について、今の説明を踏まえて感想を述べたいと思います。昨年度は、タブレットと大型ディスプレイを使ったICT環境を活かした授業ということで、小中野小学校で視察をさせていただきました。導入直後に近い状況だったのですが、子どもたちは本当に使いこなして、その機能を本当に活かして

いました。黒板に書いたものがタブレットにただ映っただけのイメージだったのですが、全くそうではなくて、みんなでタブレットを見て自由に意見を書き込んだりと、本当に素晴らしいなと思いました。予想以上と言ったら失礼なんですけど、そういう感想を持ったところです。時々止まってしまったりもしたんですけども、今日の授業では、本当にさらに進化した形で使われていることが確認できて、大変良かったなと思っています。このタブレットを入れる前よりも、子どもたちの理解を深める上で、素晴らしいツールになっていることを確認できました。本日の出前授業では、縄文館の最先端の研究成果についてもクイズ形式にしながら、子どもたちに工夫しながら伝えており、そのことにも本当に感謝したいと思っています。

ここからは私見になりますけれども、私はこの縄文時代には本当に興味を持っていて、人類の歴史が600万年と言われていて、ホモサピエンスが現れたのが20万年前と言われていいますので、その中の縄文時代は、すごい長い期間だったんですよ。ホモサピエンスが出てから、日本では20分の1の期間は縄文時代だったので、間違いなく今の我々日本人のルーツであることも、最近の遺伝子研究で分かってきていますので、それを知るということも本当に素晴らしいことだと思います。また、世界遺産になった遺跡と隣り合っている是川小学校の子どもたちが学ぶべきテーマとしても、本当に素晴らしいテーマだと思っています。子どもたちの様子を見ていても、活発に意見交換しながらやっていたので、今後もこういった形の出前授業、取組が続いてほしいなと思ったところであります。

それでは、委員の皆さんからも感想をいただきたいと思いますので、まずは築瀬委員からお願いします。

（築瀬 眞知雄 委員）

今日はありがとうございました。出前授業ということで、キャリア教育にもなっているなと思って見ていました。とにかく楽しい学びだなと。実際に触れてみて分かると言いますか、本当に分かるということは、やはり違うなと思っていました。出前授業の中でも、こういう体験をしながら学ぶということは、これからも大事にしていなければありがたいと思いますし、今日は実際に体験させていただきました。すぐに是川縄文館に行ってみたくなるような授業だと思っています。

校長先生のお話にもあったように、是川中学校とのジョイントスクール推進事業によっても、この土器を通した連携が進んでいるということが、是川地区の大きな特徴ではないかなと思います。また、地域密着型教育の観点から言うと、地域の中にある公共施設との連携・連帯ということでも先進的な取組になると思いますので、そういう点も深めていただければと思いました。

せっかく世界遺産になりましたので、学校教育にとってもチャンスなのかなと。蛇足ですが、自分が湊小学校の校長時代に、新幹線八戸駅開業が重なったり、あとは湊地区の再生まちづくりの取組、駅前再開発、市場の改築問題、それから館鼻公園の改装など、そういったことがどんどん出てきた時代にぶつかりました。その時に都市政策課の方々と一緒に、まちづくり意見交流会というものを開いて、まちづくりに対する子どもたちの意見とかをどんどん取り入れていった経験があります。何を言いたいかというと、そういったチャンス、取組を活用して、ただ子どもたちが「知る」だけではなくて、この街に「作っていく」「夢を持てる」ということが大事だなと、

当時のことを重ねながら感じていました。

最後ですが、その当時の意見交流会で子どもたちから出た意見とか夢といったものが、5年後、10年後、15年後、そして20年後の今になって実現しているもの、実現しつつあるものが確実にあるんです。ですので、そういったことを子どもたちにも話しながら、皆さんの夢・誇りが大きなものになっていくということと一緒に伝えながら、知識と共に生きた教育をやっていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

(小林 眞 市長)

ありがとうございました。続きまして、油川委員にもお願いします。

(油川 育子 委員)

はい。本日は誠にありがとうございます。冒頭に校長先生から本校の教育目標についてお話を頂戴しましたが、その中で二つ印象に残る言葉がありまして、一つは「子どもたちに誇りを持ってほしい」ということ、それから二つ目が「先人の知恵を大切にしながら、皆さんの御先祖様が大事にしてきたもの、そのことに感謝をしながら、皆さん自身がまたさらに未来へつなげてほしい」という内容のことをお話されておりました。その話を聞きまして授業を拝見したのですが、校長先生の思いというものが、児童の皆さんに伝えられているなと思いました。ここに住んでいるということに誇りを持って、授業の中で「観察する・発見する・学ぶ」というものを十分に楽しんでいる姿から、校長先生の思いというものが、担任の先生、それから児童の皆さんに浸透しているなど、大変感銘を受けました。

今後に望むことですが、児童の皆さんの発表の中で印象に残ったことが二つありまして、一つは「他の世界の歴史とは違う文化がある」ということ、それから二つ目が「祈りを大切にしていた」という、とても良いところに気が付いたと思いました。このお子さんの発言を受けて、縄文文化の大きな特徴であります「戦争を避ける文化」、「心をコントロールする文化」ということについて、さらにつなげていただきたいと思います。戦争を避ける文化的なメカニズムについては、諸説もたくさんあるかと思います。今後とも学芸員の皆様からお話をお聞きするなどして、つなげていただけたらいいのかなと思いました。今日の様子を拝見しまして、校長先生、御協力いただいた皆様、そして担任の先生が、目指すものを共有しておられるというふうな姿、大変感銘を受けました。どうもありがとうございました。

(小林 眞 市長)

ありがとうございました。それでは続きまして、小瀬川委員、お願いします。

(小瀬川 喜井 委員)

本日はありがとうございました。まず出前講座についてですが、やはり実物を目を見て、手に取って、そういった中で学芸員さんからの専門的なお話を聞き知識を得るということは、本当に出前講座の一番すばらしい点かなと思います。そういったところを是川小学校の児童6年生の皆さんが受けられており、「学ぶことの喜びと確かな力をもつ」という教育目標につながっているな

と思って見せていただきました。

授業の中では「思っていたのと違った」などと話している子どもたちがいて、観察した点から発展的に考える力を育んでいるなと思いました。子どもたちが大切そうに土器を扱っている姿を近くで見せていただきましたけれども、是川地区にある、この遺跡が世界の宝であるという意識、誇りが培われているというところも肌で感じました。学芸員さんのお話にもありましたけれども、いまだに解明していないことが多いですし、「研究って面白いね」って、先生も仰ってましたけれども、子どもたちの将来の夢につながる授業であったなと感じました。以上です。

（小林 眞 市長）

ありがとうございます。私も同じ感想を持っていて、学校で習うことって、確実に確かな知識が普通ですけども、子どもからの質問に対して学芸員の方が「住居の数を基に、人口が大体これくらい」とか説明していたのですが、まだ分かっていないこともあるとのことでした。分かっていないことを説明してもらっただけでも、すごいなっていう感じがして、同じような感想を持ちました。それでは、続きまして福井委員にお願いします。

（福井 武久 委員）

本日は御苦勞様でした。ありがとうございました。先日ノーベル物理学賞をもらった先生が「好奇心が研究の原動力だ」と言いました。やはり好奇心というのは、普段の授業というよりも、実物に見て感激したり感動したりと、私は心の動きが好奇心につながっていると思っています。それを呼び起こすためには、やはり今日のような出前授業で実物等を触ってみる、見てみるという教育は、非常にすばらしいものだと思います。今後もぜひ続けていただきたいなと思います。教員だけだと、どうしても無理な面、制約される面があるので、学芸員の方々にもこのような授業をしていただければ、将来を担う子どもたちにとってはいい経験ができるのではないかなと思います。

発達段階に応じた教育という点では、今日の授業は、観察とか理解というのが中心だったと思いますけれども、ジョイントスクールもやっているようなので、中学生あるいは高校生、その先につながるような教育についても発展させていただきたいなと思います。例えば、私が児童生徒であれば「どうやってそんな何千年前のものか分かるのか」とか、「どうやって調べているのか」とか質問すると思います。授業の中でもいろんな地名が出てきましたけれども「それは八戸のどこにあるの」とか。そういうふうなことは、多分小学生にはちょっと難しいと思いますので、八戸の地図で示してみるとか、あるいは年代測定法とか地質を調べるとか、いろんな方法があるかと思っています。ジョイントスクール等を利用して、そういうことを発展的にやっていただければありがたいなと思います。

（小林 眞 市長）

ありがとうございました。次に、佐々木校長先生にお伺いしたいと思います。是川小学校において、今般の是川石器時代遺跡の世界遺産登録を受けまして、子どもや教員、保護者等の声や様子などがあれば御紹介いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(佐々木 宏恵 校長)

まずは今日の授業を見ていただきまして、どうもありがとうございました。子どもたちにとってもいい刺激になったかと思います。世界遺産登録されたのが、ちょうど夏休みということもありましたので、夏休みの宿題で「新聞感想文コンクール」の作文を出していたのですが、6年生はほとんど世界遺産の記事を取り上げて書いてきていました。「自分の住んでいる地域が世界遺産になったことが非常に喜ばしい」、「何だかワンランクアップした気がする」といった内容で、子どもたちにとっては非常にうれしい出来事でありました。

あとは横断幕を作った経緯についてですが、この御時世、なかなか皆さんで集まるのが難しいのですが、学校としても何か地域の方に気持ちを発信したいなというのもありまして、PTAと相談して横断幕を作らせていただきました。中央公園にいらっしゃる方やバスに乗っている方にも見ていただける場所かと思います。6年生の子が作文に書いていたのは「私が生まれる前から世界遺産登録を目指していたことにすごく驚いたし、そのことがやっと叶って嬉しいな。」と気持ちを書いていましたし、どの子も言っていました。やはりそういう気持ちを示したいなということでの横断幕になりました。いろんな制限がある中でも非常に喜ばしい、地域の方々が本当に何年にもわたってずっとずっと取り組んでこられたものでありますので、学校を挙げてお祝いしたいなという気持ちであります。

また、縄文保存協会の方がやっている是川縄文の里俳句大会というのがあって、本校でも取り組んでいます。1年生から6年生までみんな作るのですが、小さい学年はどうしても世界遺産の話をして、時代的な概念がまだ狭いので「ずっと昔だよ」って言っても「50年くらい前ですか」となってしまうのですが、それでもやっぱり土器の写真を見せながら、遺跡の話をして、なんとか一生懸命作っていました。昨年度よりは俳句作りの食いつきもすごく良かったので、自分たちの住んでいるところが非常に価値のあるところだという気持ちが高まっていると感じています。今後も学校でさらに何ができるか考えていきたいと思っています。

(小林 眞 市長)

大変ありがとうございました。それでは次に、是川縄文館の今後の活用と取組について話を進めていきたいと思っています。文化創造推進課から、世界に認められた是川石器時代遺跡の継承と活用に向けて、市の文化推進の観点から是川縄文館に期待する役割について意見をお願いいたします。

(文化創造推進課 佐々木 眞 課長)

《資料に基づき説明》

(小林 眞 市長)

ブックセンターも職員の顔が見えたので、何か意見などありますか。

(八戸ブックセンター 音喜多 信嗣 所長)

ブックセンター所長の音喜多と申します。ブックセンターは、今の12月で開館5周年となりま

す。ブックセンターは「本を読む人を増やす」、「書く人を増やす」、そして「本で街を盛り上げる」の、この三つを基本方針に掲げています。普通の公共施設で考えますと、図書館で本を借りて読む、それを推進するということがあるのですが、ブックセンターにつきましては、借りて読むだけではなく、最後は本を買って読んでほしい、自分のものにしてほしいという思いから、「書店」という形式での公共施設になっております。

企画事業といたしまして、本を読んでほしいという思いから、作家さんとか様々なゲストをお呼びしてのトークイベントをやっています。ちょうど教室の入口にサイン色紙2枚並んで、その下に写真もあるのですが、2年前ぐらいになりますか、実は佐々木宏恵校長先生に御協力いただきまして、芥川賞作家の滝口悠生さん、それから柴崎友香さんに是川小学校に来ていただいて、作家さんと触れ合ってもらいたいということから、出前授業のような企画もさせていただきました。その際、すごく担任の先生が趣向を凝らしていただきまして、お二方の作品の冒頭、出だしの部分を黒板に掲示して、「このタイトルはどれでしょう」というような授業をして、ちょっと違った観点から本に触れてもらう、そういった授業をいたしました。こういった形で。小・中・高・大学といった様々な教育機関との連携についても事業を進めてきております。

ブックセンターの中に、ちょっと狭いですがギャラリーがありますので、本に関する展示を毎回行っております。今年はコロナでできなかったものもありますが、3月から「紙から本ができるまで展」を開催いたします。毎年必ず三菱製紙さんと連携して1冊の本を出版するという取組をしております。これまでは八戸市出身の小説家の小説を出して、詩集を出して、写真集を出してでしたけれども、今回は縄文遺跡の世界遺産登録を記念して縄文土器作りの教本を出版したいと思い、企画を立ち上げております。その際にワークショップ等イベントを行いながら、ギャラリー展示してまいりますので、3月開催予定でしたので、そちらも御覧いただければと思います。よろしくお願いいたします。

（小林 眞 市長）

それでは、皆さんからの御意見をお伺いします。ただ今の文化創造推進課の説明、それからブックセンターからもありましたが、そういったことも踏まえて是川縄文館、市の行政、教育委員会、今後のことについて御意見をいただければと思います。何か御質問等あれば、それも合わせてお願いします。まず福井委員からお願いします。

（福井 武久 委員）

はい。文化創造推進課の資料の施策6で、県や近隣自治体との連携強化について書いているのですが、今ちょうど世界遺産になって旬な時期だと思うので今が攻め時だと思っているんですが、他の自治体との連携強化ということは具体的にどういうことを考えているのか、もう少し教えてほしいと思います。

（文化創造推進課 佐々木 真 課長）

ちょうど今、美術館もオープンするところです。美術館の方でも県内5館の美術館で連携してやっていこうということで、今検討が始まっているところです。回遊性も含めて、それを高めて

いく。ここだけじゃなくて、まとまって事業をやっているところがございます。

(小林 眞 市長)

あとは、世界遺産登録になった遺跡同士の連携について説明できますか。

(是川縄文館 工藤 朗 館長)

是川縄文館の工藤と申します。まず遺跡の連携については北海道の道南、それから北東北3県が連携して推進会議というものを作って、その体制を整えてやっているわけですが、その中で、例えば共通の記念グッズを出したり、新聞広告等を出したり、これからになりますけれども、中央の方に行きまして講座やフォーラムを予定しております。

青森県内におきましても、それぞれの自治体でスタンプラリーをやったり、二戸の地域振興センターの話になりますが、八戸、御所野、それから秋田の大湯などでのスタンプラリーというものもやっております。さらに郵便局では、県内の縄文遺跡とその近隣の郵便局を回って歩くスタンプラリーも開催していたりと、いろんな形で各自治体との連携が出てきております。

今後の課題としては、やはりそういった部分を強化していく必要があると思います。例えば、是川縄文館に来たら今度は他の遺跡も見たいかなという紹介の仕方とか、そういったものを工夫していかなければならないなと考えております。

(福井 武久 委員)

ありがとうございます。

(小林 眞 市長)

コロナでなかなか限界はありますが、いずれ観光客も増えてくるでしょうし、縄文が好きな方も結構多いですので連携を強化して、せっかく来たんだからこういうルートで、ここには何があるというようなあたりをPRしていく仕組みも、当然あるべきだと思います。そういうのも考えているとは思いますが、世界遺産になってからは川縄文館でも三内丸山でも、コロナ禍であるにも関わらず、来る人は増えているわけです。コロナが収まってくると、さらにどんどん来ると思うので、その受入れ体制というか連携体制というのは非常に重要だと思っていますので、そういうのを踏まえて十分検討して対応してほしいと思います。

それでは次に、小瀬川委員さんをお願いします。

(小瀬川 喜井 委員)

資料の「期待する主な取組」のところになりますが、個人的に思っていることを少し申し上げたいと思います。観光地域づくり法人 VISIT はちのへの取組として、観光客の来訪プログラムと情報発信というような内容が記載されていますけれども、やはり是川縄文遺跡は世界の宝であって、世界に誇れる遺跡であります。先ほどの話にもありましたけれども、日本国内でも北東北でも、遺跡の連携ということは非常に重要だと思います。

是川縄文館では、市内の小・中学生に対して観覧料を減免されておりますけれども、今後コロ

ナが収まりましたら、たくさんの若い世代に見てもらいたいと思います。もし可能であれば、修学旅行の誘致をして観覧料を減免する等の措置があれば、さらに多くの子どもたちに見てもらえるのかなと思っておりました。

また、ブックセンターとの関連事業についても話がありましたけれども、例えば博物館であったり、新しくできる美術館であったり、市内の他の施設に学芸員さんたちがたくさんいらっしやると思います。担当課の違いはあるかとは思いますが、そこを越えて、学芸員さんたちに新しい知恵を出していただいて、連動したワークショップであったり、新しいアイデアのもと、美術館等の様々な施設を活用して、相互に高め合っていければいいのかなと思いました。以上です。

（小林 眞 市長）

ありがとうございます。修学旅行の誘致というのは是非。連携中枢都市圏の事業で子どもたちが圏域内の施設に行くときに、入館料、バス代を助成していますけれども、小学校の2学年分かな。是非、圏域内にいる子どもたちが一度は是川縄文館に来てくれるような目標を立てて、頑張ってください。

それでは続きまして、油川委員お願いします。

（油川 育子 委員）

縄文時代の遺跡におきまして様々な研究がされていると思いますけれども、私が興味を持ったこと、そして重要だなと感じたことは、縄文時代からの食べ物の多様性ということを感じました。食の文化を活用したクリエイティブビジネスにつながるかと思いますので、少しかけ離れる部分もあるかと思いますが、お話しさせていただきます。

縄文人は、実りがない季節や万が一のときに備えて木の実を貯蔵するというを見いだしました。是川の縄文文化はクルミかな、なんて思いましたけれども、この貯蔵する文化を生み出したことは、食べ物の多様性や持続可能性につながっており、文化への貢献度というのは非常に高いのではないかなと思っております。食べ物の多様性は、人が心も体も元気に生活していく上で非常に重要な部分を占めると思いますので、今後の取組について「食」に焦点を当てて考えてみました。

人ひとりが1日に食べる食べ物の種類は、アメリカやオーストラリアでは1日6品目前後であるということに対して、日本の平均は13品目とのことです。これは縄文人の努力のお陰であって、日本は世界的に見ても食の多様性という点において、とても優秀な部類に入っているのではないかなと思いました。そこで是川縄文館内にあります「これカフェ」のメニューについて、少し提案を申し上げたいと思います。現在も縄文ソフトクリーム、縄文カレーセットなど、地元のお母さん方の愛情たっぷりの特色あるメニューが提供されていますが、これに加えて、さらに「食」に特化したメニューが提供できたらなと思いました。どんな時代であっても老若男女問わず、みんなが常に関心があって必要なもの、不可欠なものは「食」であるかと思います。離乳食から介護食まで、また育ち盛り子どもたちや一般の人たち向けに縄文人が食べたであろうメニューを揃えて、豊富なメニューを揃える。そして、観光客の皆さんが必ず立ち寄って食べてみたいと思ってもらえるような食事の提供をしてはいかがかと思いました。「食」で心を満たしてあげること

でリピーターも増えてくるかと思えますし、活性化につながるかと思えます。市内の小・中学校の児童生徒の皆さんにメニューを発案してもらうなど、「食」を中心に八戸市民をはじめとし、八戸圏域の皆さんも巻き込んで、みんなで一緒に挑戦していこうという、そういう姿勢で世界の宝を守り育てていくことが大切なのかなと思い、少し申し述べさせていただきました。以上です。

（小林 眞 市長）

ありがとうございます。東南アジアは別として、欧米の方に行くと食べ物の種類って本当に少ないですね。それに比べると、日本は非常に豊富な食文化というのがある。帰ってくると分かりますけれども、縄文時代にルーツがあるのかもしれないですね。

続きまして、築瀬委員をお願いします。

（築瀬 眞知雄 委員）

ちょっと話が離れるのですが「いのるん縄文学習のすすめ」というパンフレットを貰いました。とても興味深いパンフレットなんですけど、これが小学校1年生から大人までの体験学習とか活動が中心になっている。対象学年の一番下が小学校1年生となっていますけれども、幼児教育、保育の立場から考えると、幼児向けのプログラムが見当たらないのかなと思っていました。高等機関との連携は触れられていますね。いろんなところで小・中・高等機関との連携の話が出てきて、マイブック推進事業でも高校とか高専の先生との連携が進んでいるのですが、幼稚園、保育園、こども園がどう関わるかとかの話は見当たらないので、そういう観点を持つということも大事になってくると思います。

つまり、是川縄文館に小さい子が行って、大人も一緒に行く。そういった相乗効果が生まれる可能性もありますし、生きているすべての人のルーツとして、縄文時代の人類に関係しているんだという視点も大事じゃないのかなと思っていました。ですので、幼児には難しいだろうと思わずに対象年齢を広く設定してほしいですね。キャラクターなんていうのは、すぐ分かりますよね。

「いのるん君」とか。よく着ぐるみが幼稚園、保育園、こども園を訪問して、幼児たちも楽しんでいる。幼児には、そういうのでいいんじゃないんですかね。楽しいと思えること、興味が出たら、もっと見たいとなると思うんですね。そういった簡単な視点で考えればどうか。『考古学』っていうと難しく聞こえますけど、人類の昔を考えることなので小さいときから触れていくべきことだと思うんですね。よく昔の言葉でも「三つ子の魂百まで」と言いますので、幼児の頃にそういったきっかけを作っていけば、さらに発展するような気がしています。先ほどの文化創造推進課からの説明の中にあった、計画案の施策の方向性「ふれる」であったり、「つくる」というのは、もう幼児にぴったりのテーマでもありますし、そういうプログラムの開発とかにも期待したいなと思っていました。以上です。

（小林 眞 市長）

ありがとうございます。「いのるん」のぬいぐるみはないの。

(是川縄文館 松橋 広美 副館長)

あります。ぬいぐるみではなく着ぐるみがありまして、先日千葉幼稚園の方に行ってまいりました。

(築瀬 眞知雄 委員)

そうですか。なんかそういうのがあったら是非紹介してほしいですね。

(小林 眞 市長)

「いのるん」の着ぐるみは、常に祈っていたりするのかな。

(是川縄文館 松橋 広美 副館長)

手が離れるようになっています。

(小林 眞 市長)

じゃあ、時々祈るということ。分かりました。それでは、私の意見も述べたいと思います。ちなみに、是川縄文館の建設費はいくらかかっていましたか。

(是川縄文館 工藤 朗 館長)

23億です。

(小林 眞 市長)

建設から今年で10年目になりますが、震災の年だったよね。まさに震災復旧の最中に建てて、なんでこんなの建てたのかって最初は周りからかなり怒られましたけど、今ではああいう形で子どもたちに出前授業もやっていますし、研究成果もいろいろ出てきています。ユネスコの世界遺産にも登録されたってということで、非常に良かったなと思っています。

この前ちょっと調べたんだけど、県立の三内丸山の遺跡センターで69億円です。うちは市立で頑張って建てましたけれども、負けずに頑張っていきたいと思います。やっぱり研究成果をどうやって皆さんに知っていただくかなんだよね。新しい発見だったり、どういう議論があるかあたりだったり県外に倣いながら興味深く伝えていくっていうことが非常に面白いと思います。

今、幼児教育の部分での話も出たけれども、どうやって生まれて子どもをどう育てたかなんて簡単には分かんないよね。だから分からないことだらけだと思うんですけど、縄文時代が間違いなく今の日本人のルーツだっていうことは段々と分かってきて、いろんな研究所が発表しました。「日本人って何だろう」ってことを分かるという意味では、縄文時代を研究しているというのは非常に重要でないかなと個人的には思っています。昔の歴史の教科書では縄文時代のページは1ページもなくって通過するだけだったのに、今ではすごい大きなテーマになってきて、そういう議論を巻き起こしてくれるものだと思います。ぜひ論文も書いてもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、皆さまから様々な御意見を頂戴いたしました。ありがとうございました。これまでの御

意見を踏まえまして、教育長から一言お願いします。

(伊藤 博章 教育長)

今日は本当にありがとうございました。先の授業について一言ですね。どの委員の皆さんも「実物」という言葉が使われていましたけれども、本物に触れる出前授業っていうのは、やっぱり子どもたちの興味を高めるんだなと感じましたね。それから学芸員の一言というのは、我々教員の一言とはまた違って、専門家ですので非常に説得力がある。今日体育館に入って土器を見たときに、学芸員に「あれ本物ですか」って耳打ちしたら「全部本物ですよ」って言っていて、私はレプリカとか別の物かと思っていたんです。是川縄文館を訪ねてもガラス越しにしか見ることができませんし、なかなか普通の授業でも本物に触れさせるって難しいんですよね。子どもたちがどういう感想を持ったかは別にしても、今日の1、2時間の勉強だけでも、次には是川縄文館を訪ねたときの「縄文」を見る目っていうのかな、これまでと違う考えとか意見が出てくると思うんです。八戸では「えんぶり」も出前授業をやっていますけれども、特に小学生の子どもたちにはこういう出前授業が人気もあるし、これから先のことを考えていく、地域を担っていく大人につながっていくのではないかと思います。

そういう教育活動を支えているのは、やはり学校であるわけですが、ここ是川小学校においては校長の学校経営方針が実に明確であります。御承知のとおり、佐々木校長は教育委員会在籍時代に、マイブック推進事業の立上げを担当した当人になりますが、この事業は今8年やって、98%から99%ほどの子どもたちが利用するまでになりましたし、学校の図書館もここ数年で確実に変わってきました。佐々木校長のすばらしい点としては、この地の利を生かした経営をしているところです。つまり縄文館のある地域、縄文人が暮らした場所にある学校だから、そこを大いに活用して是川小学校も中学校も学校経営をしている。最初の学校説明の中でも「教育課程に無理のない範囲で縄文と係わる」と言っていましたが、花火のように行事を打ち上げてしまうと、華やかだけどそれで終わりなんですね。やはり3年、5年と長いスパンで「是川」に触れていく、市内広しといえども、1年生から6年生まで縄文館を見学している学校は、小・中合わせてもこの学校だけなんです。このコロナ禍で、何年生かはオンラインでやっているようですが、基本的には毎年全学年が縄文館に行っているのです。それから俳句大会にも参加しています。それから、ブックセンターの担当者からもありましたが、作家を招いた出前授業をやっているんですね。「是川」というものを、土器だけではなくて文学という域まで高めてやっている。これは誰でもできるわけではなくて、やっぱり校長の是川に対する思いが本物であり、今日の授業を大変感心して見ていました。

そして、タブレットも当たり前のように使っている。スクリーンの映像は古いプロジェクターだと思うのですが非常に暗くて、子どもたちのタブレットの方が鮮明ですね。我々にも1台ずつありましたが、別にステージ上のスクリーンを見なくても良かったですし、タブレットを上手に使いながら出前授業ができたなと思っておりました。

世界遺産全体についてお話しすると、教育委員会という狭いくくりでは、世界遺産の意義や価値を発信していくことはできないと思いますので、市長部局との連携がより一層大切になると私は思っています。先ほど福井先生が「今が旬」という言葉を使いましたよね。私も全くそれと同

じことを考えていました。各学校では、修学旅行とか様々な学校行事が縮小されたり、中止を余儀なくされているんですね。だから、どの学校も10月、11月含めて、どこに出掛けるのか思案しているんです。ややコロナ禍が落ち着いてきた今だからこそ、八戸の魅力再発見という視点で縄文館や博物館、さらには今度オープンする新美術館など、八戸の文化・芸術施設の利用を積極的に発信するチャンスだと思うんですね。そのためには、やはり市教委と市長部局、文化創造推進課、ブックセンター、VISIT八戸などと一体になって発信していくことが大事だろうと思います。ばらばらの活動では、集客にはつながらないと思います。

各学校で何がネックになっているかというと、バス代とか入館料の問題ですよ。学校では博物館や縄文館以外にもスケートであったり、その他にも行かなければならない場所がたくさんあるのです。しかし、そのお金全部を保護者から集めてやっているんですね。体験学習支援事業の「はっふる隊」の制度を使えば、バス代が無料、入館料も無料ですので、この「はっふる隊」と縄文館の魅力をセットで呼び掛けていくことが必要だと思います。パンフレットにも書いてありますけれども、滞在時間や体験内容等の学校の選択肢をもっと広げながら、来てもらうための努力をしなければだめだと思うんですね。単なる広報だけじゃなくて、直接学校を訪問するといった営業活動をして、担当者が汗を流して取り組んでいかないと、世界遺産だからといっても学校の先生や生徒たちには伝わらないんですね。

この出前授業は、子どもたちを縄文に惹きつける一番の策ですね。非常に説得力がある。文化創造推進課でも「伝統の継承と活用」とか「担う人、支える人の確保・育成」とありましたけれども、地元紙の10月6日号に是川縄文館の学芸員の菊地さんの記事が大きく載っていたんですね。彼女がなんで学芸員になったかということ、新井田小学校6年のときに参加したイベントで火おこしを体験し、縄文文化に興味を持ったと。1万年以上にわたって採集や狩猟によって定住した人々の生活や精神文化、出土品の繊細さやその奥深さにのめり込んだそうです。そして、大館中学校時代には、是川縄文館の初代中学生ボランティアをやっているのです。年配のボランティアの方もいるのですが、高校生や大学生や中学生でも、若い人たちのお客さんを引き込むためには、若いボランティアを育てていくことが大切だと思います。毎日ではできませんし、課題もたくさんあります。けれども、夏休み中とか冬休み中とか、そういう若いボランティア、そういう人に接することによって、これまでにない魅力が是川縄文館に出てくるような気がします。菊地さんがそういう是川縄文館での火おこしをきっかけに学芸員になって、その縄文館に今勤務しているということで、大変感激しました。

（小林 眞 市長）

はい。ありがとうございます。一つだけ補足しますと、マイブッククーポンについては、当時の公約に掲げていた「本のまち八戸」の事業の一つとして始めたわけですが、その頃に教育委員会にいた佐々木校長が担当者でした。それから、「はっふる隊」は連携中枢都市圏の事業ということで、八戸市を中心として8市町村でやっています、この事業とすることによって国からの支援金が見られるという仕組みを活用してやっているということです。学校では行きたい場所がいっぱいあるので、重ねて縄文館には頑張ってほしいなと思います。

今日は出前授業ということで、実際に子どもたちの様子を見させていただいて大変すばらしい

時間を過ごせました。委員の皆様とも有意義な意見交換をできたのではないかと考えております。今日いろいろと発言いただいたことを踏まえて、教育スタッフの中で活かしていくということで、アイデアを練られればと考えております。また、御協力いただいた佐々木校長先生をはじめ、是川小学校の皆さんに改めて感謝申し上げたいと思います。大変ありがとうございました。

(午前11時35分 閉会)